



平成 29 年 1 月 12 日

各 位

会 社 名 シンワアートオークション株式会社
代表者名 代表取締役社長 倉田 陽一郎
(J A S D A Q ・ コード 2 4 3 7)
問合せ先 経理部長 益戸 佳治
電話番号 0 3 - 5 5 3 7 - 8 0 2 4
(<http://www.shinwa-art.com/>)

平成 29 年 5 月期第 2 四半期累計期間の業績予想値と 実績値との差異に関するお知らせ

平成 28 年 7 月 13 日に公表しました平成 29 年 5 月期第 2 四半期累計期間（平成 28 年 6 月 1 日～平成 28 年 11 月 30 日）の連結及び個別の業績予想値と、本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想値と実績値の差異について

平成 29 年 5 月期第 2 四半期（累計）連結業績予想値との差異
（平成 28 年 6 月 1 日～平成 28 年 11 月 30 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1 株当たり四半期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	2,069	176	160	98	円 銭 17.12
実 績 値 (B)	1,794	△0	△36	△37	△6.53
増 減 額 (B-A)	△275	△177	△197	△135	
増 減 率 (%)	△13.3	—	—	—	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 28 年 5 月期第 2 四半期)	1,726	169	160	96	16.95

< 差異の理由 >

売上高はオークション関連事業で 106 百万円、エネルギー関連事業で 153 百万円の減少、営業利益はオークション関連事業で 125 百万円、エネルギー関連事業で 28 百万円の減少となりました。エネルギー関連事業におきましては、当第 2 四半期連結累計期間は低圧型太陽光発電施設 61 基を販売いたしましたが、販売単価が当初見込より低くなり、売上高は減少となりました。利益面におきましては、売上原価は当初見込より減少しているものの、営業外費用において主にシンジケートローン契約締結による支払手数料及び支払利息が増加し、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益が圧迫されることとなりました。オークション関連事業における差異の理由は、主に後述の個別業績予想値と実績値の差異に記載のとおりであり、これらが、当第 2 四半期連結累計期間の連結業績予想値と実績値との差異の主な要因であります。

なお、今後につきましては、オークション関連事業における当初予算に組み込んでいない一定量のプライベートセール取り扱いと、平成 29 年 3 月末の連系に向けてのエネルギー関連事業における相当数の低圧型太陽光発電施設の販売台数の増加を見込んでおり、従いまして、通期の連結業績予想につきましては、前回公表値を据え置くものとします。

2. 個別業績予想値と実績値の差異について

平成 29 年 5 月期第 2 四半期（累計）個別業績予想値との差異
（平成 28 年 6 月 1 日～平成 28 年 11 月 30 日）

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	484	21	12	円 銭 2.23
実 績 値 (B)	375	△53	△25	△4.38
増 減 額 (B－A)	△109	△75	△38	
増 減 率 (%)	△22.5	－	－	
（ご参考）前期第 2 四半期実績 （平成 28 年 5 月期第 2 四半期）	510	37	25	4.49

<差異の理由>

美術品取引業界におきましては、全般的に美術品の流通が停滞気味であり、その傾向は高額美術品において顕著であります。その影響により、当第 2 四半期累計期間は、オークション関連事業における平均落札単価が低迷しており、売上高、営業利益、経常利益、四半期純利益ともに前回予想を下回ることとなりました。

なお、下半期には定期開催のオークション以外にも、当初予算に組み込んでいない一定量のプライベートセールを見込んでおり、従いまして、通期の個別業績予想につきましては、前回公表値を据え置くものとします。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想値と異なる結果となる可能性があることにご留意ください。

以 上